

かめのりスクール 2018 報告

かめのりスクール 2018 の目的

日本とアジアの青少年が交流を通して相互理解を促進することを目的とする

目標

- ・ コミュニケーション能力を伸ばす
- ・ グループ活動を通して、深く考える力、創造する力を伸ばす
- ・ 異なる文化を持つ人との交流を楽しむ

参加者

- ・ アジア 6 か国（インドネシア、マレーシア、フィリピン、中国、韓国、タイ）で日本語を学んでいる高校生 12 名（各国男女 1 名ずつ）
- ・ 日本の中高生 18 名

期間

2018 年 7 月 21 日（土）～22 日（日）	到着
7 月 22 日（日）～27 日（金）	かめのりスクール@東京
7 月 27 日（金）～30 日（月）	かめのりスクール@御殿場
7 月 31 日（火）	帰国

スケジュール

	テーマ	午前	午後	夜	宿泊
7/21（土）	来日			PHI、CHN 来日	成田
7/22（日）		INA、MAS、THA、KOR 来日	オリエンテーション 新宿散策	振り返り	東京
7/23（月）	新しい日本	渋谷・原宿散策	和太鼓体験	振り返り	東京
7/24（火）	古い日本	茶道体験 歌舞伎座ギャラリー	浅草 江戸東京博物館	振り返り	東京
7/25（水）	アニメの日	藤子・F・不二雄 ミュージアム	振り返り	ホストファミリーに	ホストファミリー宅
7/26（木）	ホームステイ				ホストファミリー宅
7/27（金）	「つたえる・ つたわる」		東京駅から移動 オリエンテーション・アイスブレイク	アジアの旗作成	御殿場
7/28（土）		仲良くなるセッション テーマ導入	テーマ導入 ブレインストーミング	アジアアンタム	御殿場
7/29（日）		発表の準備・ ジングル・ポスター作成		キャンプファイヤー	御殿場
7/30（月）		発表・振り返り	東京戻り	体験発表・歓送会 成田に移動	成田
7/31（火）	帰国	帰国			

活動報告

【7月21日～22日】

21日夜にフィリピンと中国の参加者が来日。22日朝にはインドネシア、マレーシア、タイ、韓国からの参加者も到着し、空港から東京市ヶ谷のホテルに移動した。ホテルでオリエンテーションを受けた後、大学生スタッフに引率され、移動の疲れも見せず猛暑の新宿都庁近辺に出かけた。初めての電車、高層ビル、映画「君の名は。」に出てくる交差点などに感動したという声が夜の振り返りで出ていた。数時間前に会ったばかりの12名が夜にはすっかり打ち解け、共通語の日本語で頑張って会話する様子が見られた。



到着



新宿 LOVE の前で

【7月23日】

「新しい日本」というテーマで原宿、渋谷に街散策に出かけた。この日も猛暑だったため、普段あまり歩かないという参加者の体調が懸念されたが、皆元気にホテルに戻ってきた。「10 kmも歩いた、がんばった！」という声が上がっていた。明治神宮、原宿竹下通り、渋谷スクランブル交差点を回り、LINE ショップやアニメイトにも立ち寄り、新宿とは違った若い人の街を感じたようだった。エスカレーターの手すりや電車で日本人が皆静かにしていることなども興味深かったようで、夜の振り返りでそれぞれの発見を話してくれた。

ホテルに戻った午後は和太鼓体験をした。荒馬座の方々の実演を見た後、実際にバチを握り、汗をかきながら思いっきり太鼓をたたき、楽しんだ。太鼓は牛の革を使っている、篠笛は竹でできているなどの説明にも熱心に耳を傾けていた。



原宿



和太鼓体験

【7月24日】

「古い日本」というテーマで、茶道体験、歌舞伎座ギャラリー見学の後、浅草で昼食と散策、江戸東京博物館見学をした。前日の夜に茶道、歌舞伎、江戸などのキーワードについて学んでいたため、どの参加者も関心を持って体験、見学を行っていた。江戸東京博物館ではワークシートを埋める難しいタスクも一生懸命取り組んでいた。「時間が少なかった、もっとゆっくり見たかった」という参加者もいて、皆の意識の高さに関心した。

品川の回転ずしで夕食をとった後電車で市ヶ谷に戻ったが、ちょうど帰宅時間と重なり、満員の山手線を経験した。夜の振り返りでこの日一番印象に残ったことは「満員電車」という声も上がり、「もう二度と乗りたくない」「もう一度乗りたい」と盛り上がった。



茶道体験



歌舞伎座ギャラリー



浅草で



江戸東京博物館でタスク

【7月25日】

「アニメの日」というテーマでは、藤子・F・不二雄ミュージアムを見学。ドラえもんは皆小さいころから親しんでいるキャラクターなので、楽しい数時間を過ごした。午後は市ヶ谷に戻り、休憩を取りながらホストファミリーのお迎えを待った。ホームステイに向けての心構えとして「挨拶、感謝、笑顔」と伝えていたので、初対面の時から皆頑張って笑顔を見せていた。



ホストファミリーと



【7月27日】

2泊のホームステイを終え、お昼にホストファミリーに送ってもらって東京駅集合。日本の家庭生活を初めて体験し、何を食べたか、どこに行ったか、何の遊びをしたかなどをスタッフに話したくてうずうずしている様子だった。

18名の日本人中高生と合流し御殿場に。バスの中で緊張しているのはむしろ日本人参加者の方だった。御殿場YMCA 東山荘に着いて、開校式、オリエンテーション、アイスブレイクなどの後、夜は5人グループでアジアの旗を作成した。アジアのイメージを膨らませ、ユニークでカラフルな6枚の旗が出来上がった。グループ活動を通して緊張もほぐれ、アジアの仲間としてお互いを受け入れようとコミュニケーションを図っていた。

1日目の終わりには3泊4日に主体的に参加するように各自の目標を紙に書かせた。



バスの中で



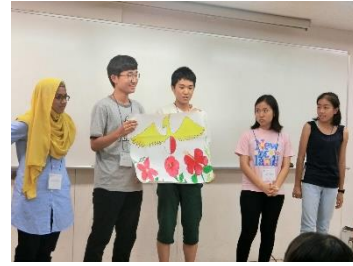
開校式



アイスブレイク



アジアの旗作成



【7月28日】

台風の影響で時折雨が強く降るあいにくの天候で、予定していた芝生での朝の運動は会議室でのラジオ体操とゲームとなった。御殿場プログラムでは、朝の運動、アジアンタイム、キャンプファイヤー、交流会を学生スタッフの担当とし、企画、進行を任せた。参加中高生だけでなく、大学生スタッフにとっても学びの場となることを期待していたが、その期待にたがわず責任感を持って仕事にあたってくれた。

午前中はテーマの「つたえる・つたわる」を考えさせる導入セッションを行った。前日からここまでの活動はすべて違うグループ構成で行い、参加者になるべく多くの人と話すことができるように工夫した。また、アジア生が国ごとのペアで母語でスキットを行い、表情や動作、言葉の抑揚などからスキットの内容を推測する、というセッションを今年初めて試みた。どのペアもセッションの意図をよく理解した熱演で、日本人参加者から大きな拍手が送られていた。

最終日の発表は、国連の掲げる17のSDGs（Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標）の中から伝えたいメッセージを選び、それをジングル（わかりやすいメロディーやリズムに繰り返しの言葉などを載せてメッセージを伝える手法）とポスターで表現するというもので、この日の午後からその準備に入った。まずジングルを知り、練習ジングルをグループで作成。そして、SDGsを学び、どの項目を選ぶかグループで話し合った。アジアの参加者にとって日本語でSDGsを語ることはかなりハードルが高かったが、日本の参加者にとってもわかりやすい日本語を話すことはチャレンジであった。

夜は「アジアンタイム」で、アジア生が自分の毎日の生活についてプレゼンテーションを行った。本国から準備してきたPPTと民族衣装で立派な発表をし、ガイドブックやテレビ番組には出てこない日常を披露してくれた。



アジア生のスキット



テーマ導入のグループ活動



アジアンタイム



民族衣装を着た生徒も

【7月29日】

グループ作業の日。自分達で作業の進行を決めて、ジングルとポスター作成を行った。講師がグループを回って作業状況を確認。誰に何を伝えたいのか、どういうアクションが考えられるのか、どこまでグループで話し合ったのか、などの鋭い質問に「もう一度話し合わなければ…」と頭を抱える参加者が続出した。アジア生2名、日本人3名のグループ構成で、日本語に英語を交えながら中高生らしいアカデミックなディスカッションが見られ、皆で伝えたいメッセージが概念として一致した後は、ジングル、ポスター作成を楽しそうに行っていた。

台風が去り、心配していたキャンプファイヤーも行うことができた。富士山も見事に見え、作業が難しかった分、とても盛り上がった時間となった。



悩みに悩んで



キャンプファイヤー



【7月30日】

いよいよ発表。6つのグループが3日の成果をジングルとポスターで披露した。ラップのグループもあれば、ピアノの伴奏をつけたグループもあり、それぞれがユニークなジングルであった。選んだテーマは「質の高い教育を皆に」「不平等をなくそう」「海、陸の豊かさを守ろう」…といろいろ。発表後練習が足りなかったと反省するグループもあったが、評価すべきは発表の上手さではなくプロセスであり、その意味でどのグループも素晴らしい活動を行ったと言える。



閉校式後、お昼にバスで御殿場を出発。日本人の参加者は東京駅で降り、アジア生は市ヶ谷に戻り、ホストファミリーを招待した歓送会で体験を発表した。短い期間であったが皆日本語力も上がり、来日時はシャイだった参加者も堂々とした発表を行った。印象に残ったことは、ホームステイ、江戸東京博物館、茶道、日本人中高生との交流、アジアからの仲間たちなどさまざまであったが、この9日間の一番のインパクトは彼らの中の「成長」であったと歓送会に出た皆が感じ取ることができた。



体験発表会、歓送会

【7月31日】

前夜歓送会後に成田空港に移動し、午前の便で無事それぞれの国に飛びたっていき、無事「かめのりスクール 2018」は終了した。



報告：(公財) かめのり財団
橋本成子